

(別紙の2)

自己評価及び外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人の理念及び、事業所の理念、目標については、全体会議にて周知徹底しており、施設内にも見える場所に掲示をしています	基本理念は、法人全体で計画され共有されていきました。事業所では、理念に基づき目標や基本方針が作成され、会議等で職員の理解、周知に努めていきました。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している。	自治会に加入し、地域の行事に積極的に参加をしておりますが、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、現在は地域へ出向くことが困難な状況です。	事業実施計画には、地域への行事参加、計画的なボランティアの受け入れ等、交流を通して社会性のある暮らしを提供されていきました。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	法人の事業所報告会やSNSを通じて、事業所の紹介等情報発信をしています。また、ご家族とのやり取りも、御面会時に状況の報告や動画や画像にて記録したのを見て頂いております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている。	新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、施設への来場が出来ない状況です。運営推進会議も令和2年度からは開催が出来ない状況です。	運営推進会議は年6回の開催計画がありますが、コロナ禍の為施設での開催は行われていません。書面にて事業所の様子や問題点が報告され、意見に対して検討もされました。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力を築くよう取り組んでいる。	運営推進会議が行われていないですが、情報提供は適宜行われています。	運営推進会議は、開催されていませんがホームでの利用者さんの様子や活動は、写真等を載せたわかりやすい物が提供され、市町村とサービスの改善に取り組まれました。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	法人の研修会に参加し、法に基づく支援を行っています。施設の施錠につきましては、防犯対策上、夜間帯のみ行っています。	法人研修、社会福祉士会主催の研修にも参加され身体拘束のないケアに取り組まれました。職員からも身体拘束はしませんと、しっかりした意思表示がありました。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	法人の全体研修に参加し、接遇や支援を徹底しています。また、定例会議でも、不適切な支援が無い様に意識の統一を図っています。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	法人全体研修に参加し、コンプライアンスの理解をしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約者に対し、細かく説明を行いながら同意の署名と捺印をいただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	現在、家族会が開催されない状況であるため、御面会時や最低3カ月に1度のサービス計画書の見直し時にご家族から要望等をお伺いしています。	コロナ禍の為家族会の開催はされていませんが、写真入りでホームの様子をお知らせして、電話やお便りで意見を聞き反映されました。利用調査でも希望をサービスに反映されていることが確認できました。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	年間の職員面談の開催時に運営者に対し、意見や提案を伝えて反映しています。	職員から資質向上の為に近隣事業所との連携やスキルアップの機会を計画してもらい意欲が持てる、意見も言いやすいと聞き取りができました。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	個人面談の中で、職員の評価を行い、労働環境の改善や労働条件の見直しを行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	キャリアパス制度を活用し、職員に必要な研修を受講しています。また、外部研修については、必要時に研修に参加をしています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	年間通して行われる他法人との研修(大樹会・依田窪福祉会・恵仁福祉協会)との合同研修会や交流会を開催し、情報の共有をしています。(最近は必要最低限の研修です。)		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	施設入居時に、事前に聞き取り調査を行っています。ご本人の悩みやご家族の悩みを総合的にとらえ、ケアプランに反映させています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	施設入居時に、事前に聞き取り調査を行っています。ご本人の悩みやご家族の悩みを総合的にとらえ、ケアプランに反映させています。また、定期的にご家族の意向を再確認し、支援を行っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人やご家族とサービス内容についてお話しする機会を設け必要な支援が行えるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	職員全員が入居されている方々と一緒に生活を送っている家族のような関係を築くように努めています。孤独にならないように一緒に様々なことを行うよう努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	職員全員がご家族の意向を共有し、ご本人の生活を支えていくように支援しています。ご家族との関係も継続されるように面会等は、ご本人とご家族の時間を大切にしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	外出や外泊について制限がないことをお伝えしていますが、現在、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、外出が出来ません。施設内では、デイサービスの利用者も気軽に来所出来るように入出口を開放しています。	行事計画は作成されていますが、コロナ禍の為、安全を考慮され交流は行っていませんでした。デイサービス事業所でのリハビリ等は行い、コロナ禍でもできることは工夫されました。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	食事やお茶の時の席などを配慮しています。ソファでくつろぐ際にも人間関係に配慮しています。お話しをする際に耳の遠い方の近くに座り入居者さん同士が会話しやすいように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	併設の特養に入所されたり、在宅復帰されて併設のデイサービスを利用されている方々との関係が継続できるように特養に尋ねて行ったり、デイサービスへ行ったりするように支援しています。併設の事業所と合同で行事を行い、一緒に参加するように支援している。(現在は、なかなか出来るような状況ではないです。)		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人やご家族から思いや意向をその都度お聞きし、職員全員が共有できるように努めている。日常の会話からご本人の思いや意向をお聞きしています。困難な場合はご家族にも協力をしていただき検討しています。	日常生活の中から本人の想いを探るようにされていました。寄り添って話をする、うなずき同意をする等。意見や要望は職員で共有されていました。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前に利用していたサービス事業所からの情報提供を参考したり、事前にご本人やご家族より今までの暮らしについてお聞きしています。入居後もご本人との関わりから情報の収集に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	職員間の申し送りをを行い、日々の状態や心身の変化、身体状況等の変化についても職員間で共有できるように記録するよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	カンファレンスやモニタリングを定期的に行っていますが、日々の申し送りでもケアの見直しを検討しています。ご家族にも現状をお伝えし、ご意見を参考にしてケアの検討を行っています。	利用者の情報の共有に努め、ケアの見直しにつなげていました。介護計画の見直し、モニタリングも計画的に行い本人家族への報告もされていました。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別の記録に日々の気づきなどを記入するように努めています。カンファレンスに記録内容を反映しケアの見直しや検討を行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	臨機応変の対応が必要な時には、ご家族とも協力し、ご本人の願いがかなえられるように支援をしています。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	民生委員や地域包括センターの職員の協力や助言をいただいています。地域のボランティアの受入れも積極的に行っています。(現在は、状況に応じてご相談等を行っています。)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ご本人やご家族の希望で選択して頂いています。通院や受診もご家族やご本人の希望で対応しています。	利用開始時に、かかりつけ医等の説明もされていました。家族、本人の希望を尊重し、対応していました。ホームから通院された時は家族への報告も行われていました。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護と契約し、週に1回看護師が訪問してくれます。ご本人の健康管理や医療面での相談に乗ってくれています。ご本人や職員の相談相手になっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医や診療所の医師に相談し、ご本人やご家族にとって最善の方法で対応出来るように努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	加齢に伴って重度化する場合や終末期を迎えることも十分起こりうることでありますが、入居者や家族の希望を踏まえ、医師や職員が連携し、指針に基づき、安心して納得のいく生活や終末期ケアが出来るように取り組んでいます。	入所時に終末ケア等の説明がされていました。法人内の特別養護老人ホームとの連携、医療体制について本人家族へ周知していました。また必要に応じ話し合いをされているとのことでした。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時のマニュアルを作成し、訪問看護や医師との連携を取れるようにしています。また、救急法の研修なども受けています。職員同士で対応について勉強し備えています		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	法人全体で防災計画を策定しています。また、地域の消防団等とも協力体制を作っています。避難訓練も夜間想定や日中想定により行っています。	隣接されている法人の事業所と防災計画がありました。法人内の訓練や地域との協力体制もできており、一昨年台風19号の時は浸水被害があった事業所と協力ができたとのことでした。	隣接する法人内の事業所で浸水被害があり協力されたとありますが、移動に困難な方もいらっしゃいます。夜間の職員体制、地域との連携を築き一層の安全対策を期待します。

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者が介助や援助が必要な際は先ずご本人の気持ちを大切に、自尊心を傷付けないように配慮しています。入居者の情報収集や他の事業所との連携の際にも守秘義務について十分理解し取り扱いや管理を行っています。	毎日の生活の中で、できることは積極的に参加していただき、ご自分の生活をしていただくケアをしていました。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者一人ひとりに合わせた声かけや対応をしています。意思表示が困難な方や耳が遠い方についても表情や筆談などを行い、ご本人の希望をお聞きしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	食事やお茶の時間は目安として決まっていますが、日々の入居者の状況に応じた対応が出来るようにしています。ご本人の体調や気持ちを優先し対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	日々の洋服や入浴後の洋服の準備についてもご本人の希望をお聞きし対応しています。理容サービスの際もご本人の希望が伝わるようにサポートしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	職員が全て食事の準備を行うのではなく、ご利用者と一緒になって野菜の皮むきや味見などをして頂いています。後片づけについてもご利用者と一緒に行い、支援しています。	今までの生活習慣を基にできることはやっていただき、役割を持ち一緒に関わって、楽しく食事ができる支援をしていました。また地域での生活習慣を大切に伝統的な食文化や季節を感じる支援をしていました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	利用者の日頃の様子や健康状態などを配慮して食事量や水分量の対応をしています。医師や訪問介護に相談をし指導を受けています。日々の申し送りでも当日の状況を職員全員で把握し対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後口腔ケアを行って頂いています。一人ひとりに合わせた声かけをしケアを行っています。夕食後は義歯の洗浄を毎日行っています。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	利用者一人ひとりの排泄習慣やパターンを職員が理解し、出来るだけご本人が自立した排泄を行えるように対応しています。	オムツを利用されている方もいましたが、リハビリパンツや布パンツへの取り組みをされており、自立した排泄支援を行っていました。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	食事は野菜を多く使用し、繊維質の摂取を心掛けています。水分量の減少が便秘に影響するのでお茶だけでなく乳製品を取り入れた飲み物を摂取できるようにしています。排便の確認についてもご本人の自尊心を傷けないように行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	入浴は基本的には木曜日以外に実施しています。予定表を作成し、それに沿って入浴していますが、ご本人の希望があれば入浴できるように配慮しています。	週2回の入浴支援は、予定は組まれていますが本人の希望に沿って支援が行われていました。デイサービスの入浴施設も利用していました。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	夜間はもちろん日中でもご本人の希望があればお部屋で休息して頂いています。リビングのソファや畳の上でも休息出来るようにしています。廊下にもソファを設置し、日光浴や休息が出来るように配慮しています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	処方された薬について職員で学習しています。個人ファイルに処方薬の説明書を入れてあり常に確認できるようにしています。処方薬が変更になった際も副作用や注意事項を職員で学習しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	利用者一人ひとりの趣味・趣向については入所されても継続して行えるように配慮しています。ホーム内での生活だけでなく散歩や外出も積極的に行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	ご本人より散歩の希望がある際には一緒に散歩に出かけます。感染対策を十分に行いながら、外出も積極的に計画しています。事前に家族にも連絡し協力して行っています。	外出は、行事として計画されているものや個々に対応するものが計画されていますが、コロナ禍のため満足にはされていません。自然環境の良い中で散歩等は積極的に行われていました。	

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	行事や散歩、外出した際にご本人の欲しいものを購入して頂けるように支援しています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご本人の希望がある際は対応しています。家族から電話や手紙が来た際にはご本人にお伝えしお話し出来るよう配慮しています		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節の花を飾り眺めたりして楽しめるようにしています。採光を調節したり、空気の流れ替えをして、自然を感じられるようにしています。日光浴や外を眺めることが出来るように廊下にソファを設置しています。	コロナ禍の為居室等の見学は行えませんが、共有空間は、清掃の行き届いた明るい空間が提供されていました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	食事の席やテレビの前のソファ、畳などご本人の希望する場所でくつろいでいただいています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時にご自宅で使用されていた使い慣れたものを使用できる旨の説明をしています。家族が用意した物を使用できるように配慮しています。	今までの生活を大切にして、本人の希望の物が使用できていました。日用品、食事の箸や茶わん等馴染みのものを利用されていました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	施設内は伝い歩きが出来るように家具などを配置しています。いつでも職員がサポートできるように配慮しています。		